



特 別
~ 13
4183
|



[illegible]

あひうも人にもばくありまあるぬきたあつてもさる者あら
くしむをかう人もと立まうりてうあつどけかうさる
しもあひあさわさあせあつさうあさ事いへづ
しゑは乃神子^こ作^{つく}病^{やま}より後^ご魚^{うい}乃^の地^ぢまじ無^な良^{らう}
もそののさる人乃歌^{うた}あんそやうさる人けきもあ
とほれ秘^ひさうもさうさうもを声^{こゑ}さうさうといふにけ
さうものうけかめよそれのうけいけ

瓢水子雲云處亡寂述



程奇卷第一

程奇心卷第一
 掃子人丸を和歌の祖師りて奇心乃長とあつ
 知く是をりてさうさ歌歌とを教くうとなすいそ
 といふる國乃祖人の子とてさうになつてさうさ
 られ祖人乃人うと後またさうのわさうとていひに
 多ふ八尾大尾に姫さう父さう天守乃居りてれと
 一もいひけりて人志のいひて毎いさうはさうさうと
 総乃國りさうそれみとてさうさう一もいひさうさ
 せと後つて年うらにさうさうりてさうとつてさう
 程にさうさうとてさうさういひさうさうとて我々
 石見國さう浦りてさうさうとて
 石見國さう浦りてさうさうとて



かろきとらふ今ハ伊勢さきとらづすは地と振るふ
伊勢がしらふふ流るんとわらうとやうふ

事重し伊勢振るふ屋非じうふふふふふふふ

○馬を振るふまうりふ後ハ振るふ人ハありて

とてふふと恒もわづふふふふふふふふふ

乃馬が振る親乃馬とてふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

○馬を振るふまうりふ後ハ振るふ人ハありて

とてふふと恒もわづふふふふふふふふ

乃馬が振る親乃馬とてふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

○馬を振るふまうりふ後ハ振るふ人ハありて

とてふふと恒もわづふふふふふふふ

乃馬が振る親乃馬とてふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

○馬を振るふまうりふ後ハ振るふ人ハありて

とてふふと恒もわづふふふふふふ

乃馬が振る親乃馬とてふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふ

○馬を振るふまうりふ後ハ振るふ人ハありて

とてふふと恒もわづふふふふふ

乃馬が振る親乃馬とてふふふふ

ひとりの武蔵のあかきつゝとていふことなるぬ
くもたわのうき後世のあかきつゝとていふことなるぬ
武蔵の保良のつゝとていふことなるぬ
たもともあかきつゝとていふことなるぬ
きまりその年の書とていふことなるぬ
終つてその武蔵の書とていふことなるぬ
母の武蔵の書とていふことなるぬ

武蔵の書とていふことなるぬ
きまりその年の書とていふことなるぬ
終つてその武蔵の書とていふことなるぬ
母の武蔵の書とていふことなるぬ
武蔵の書とていふことなるぬ
きまりその年の書とていふことなるぬ
終つてその武蔵の書とていふことなるぬ
母の武蔵の書とていふことなるぬ

武蔵の書とていふことなるぬ
きまりその年の書とていふことなるぬ
終つてその武蔵の書とていふことなるぬ
母の武蔵の書とていふことなるぬ

武蔵の書とていふことなるぬ
きまりその年の書とていふことなるぬ
終つてその武蔵の書とていふことなるぬ
母の武蔵の書とていふことなるぬ
武蔵の書とていふことなるぬ
きまりその年の書とていふことなるぬ
終つてその武蔵の書とていふことなるぬ
母の武蔵の書とていふことなるぬ

○武蔵の書とていふことなるぬ
きまりその年の書とていふことなるぬ
終つてその武蔵の書とていふことなるぬ
母の武蔵の書とていふことなるぬ



○藝少はなれるさうや家祇乃川きつ律あよ
 急くふ時きりの中ふあぬえのあひうませ
 宗初に當り鳴のそ律あよきされ
 涼山をわつふ冷つと時當あきなりをけしそそ
 あわそきて是地きううは橋紙也とまうる連方師
 を園秀吉と云ふあまをわつる秀吉と云ふ仰きり
 奥山うみ家あきうけ時當
 紙也わあきと云ふあきうけ時當
 せううは氣を換て夫うあきと云ふあきうけ
 せううは氣を換て夫うあきと云ふあきうけ
 まう細川吉成はあきと云ふあきと云ふあき
 武蔵野の原と云ふあきと云ふあきと云ふあき

とるんまきとくさけりしとくふ和奇のるむろ
をゆふとけりぬふとくさけりしとくふ和奇のるむろ
沖盛ありはす、同奇とてゆふふる管の鳴といふ
す、ふはあきと時きりく管と鳴ともふとくさけりし
す、ふはあきと時きりく管と鳴ともふとくさけりし
○宇治の沖盛なる和奇の鳴はゆふとくさけりし
和奇の鳴はゆふとくさけりしとくふ和奇のるむろ
人きりしとくさけりしとくふ和奇のるむろ
くさけりしとくさけりしとくふ和奇のるむろ
てゆふとくさけりしとくふ和奇のるむろ
りゆふとくさけりしとくふ和奇のるむろ
業平のよあふ

思ひおとすけりしとくさけりしとくふ和奇のるむろ
あきとくさけりしとくふ和奇のるむろ
半朝のあきとくさけりしとくふ和奇のるむろ
總國のあきとくさけりしとくふ和奇のるむろ
てゆふとくさけりしとくふ和奇のるむろ
す、ふはあきと時きりく管と鳴ともふとくさけりし
す、ふはあきと時きりく管と鳴ともふとくさけりし
○楊井のあきとくさけりしとくふ和奇のるむろ
りゆふとくさけりしとくふ和奇のるむろ
何あきとくさけりしとくふ和奇のるむろ
○あきとくさけりしとくふ和奇のるむろ
てゆふとくさけりしとくふ和奇のるむろ

て酒あふて首とかいふかそて冠とかやういふ格に
ふれれ乃にど先つゝあんとくへ儀やういふおれを
けり冠とそりてけりて

今より紅花とそりてけりて(紅花とそりてけりて)
えいん斜めは奥とそりたういふの酒あふてけり
より今集とそりてけりてあふたういふおれや
あまけり

酒あふれ多とそりてけりや確ちういふおれと
あふたういふ酒あふてけりて

中へふたあふてけり酒あふてけりて
○あふたあふてけり酒あふてけりて
こころあふてけり酒あふてけりて

いふあふてけり酒あふてけりて
あふ

いふあふてけり酒あふてけりて
○あふたあふてけり酒あふてけりて
あふたあふてけり酒あふてけりて
あふたあふてけり酒あふてけりて

あふたあふてけり酒あふてけりて
あふたあふてけり酒あふてけりて

あふたあふてけり酒あふてけりて
あふたあふてけり酒あふてけりて
あふたあふてけり酒あふてけりて

つていふさういふあはれにわいふあはれせんといふた
千とらうとつらういふは

お月あやめはさういふあはれにわいふあはれせんといふた
酒をうめうめい

かりあはれいふさういふあはれにわいふあはれせんといふた
○お月あやめはさういふあはれにわいふあはれせんといふた
つていふさういふあはれにわいふあはれせんといふた
付せうを信じていふさういふあはれにわいふあはれせんといふた
書さういふあはれにわいふあはれにわいふあはれせんといふた
ていふさういふあはれにわいふあはれにわいふあはれせんといふた
さういふあはれにわいふあはれにわいふあはれせんといふた
といふさういふあはれにわいふあはれにわいふあはれせんといふた

○お月あやめはさういふあはれにわいふあはれせんといふた
七月九日れいふあはれにわいふあはれせんといふた
とお月あやめはさういふあはれにわいふあはれせんといふた
かりあはれいふさういふあはれにわいふあはれせんといふた
とお月あやめはさういふあはれにわいふあはれせんといふた
人のももいふさういふあはれにわいふあはれせんといふた
さういふあはれにわいふあはれにわいふあはれせんといふた
らばいふさういふあはれにわいふあはれせんといふた
中らういふさういふあはれにわいふあはれせんといふた
さういふあはれにわいふあはれにわいふあはれせんといふた

お月あやめはさういふあはれにわいふあはれせんといふた
お月あやめはさういふあはれにわいふあはれせんといふた



○そのるんつうとつふすをよるやうて人乃せやあの
 多とくをわをせらからうのうらとわあつていふ
 らつらつるふふれつとてとてとてとてとてとてとて
 すわつていふつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 人にもつていふつらつらつらつらつらつらつらつら

ゆらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 まづにつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 ○山つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 はつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 水と目おるつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

はつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

二思鑑上句

源氏物語
卷之四
藤原



